



青森から

畑の土を煮出した液で害虫がいなくなった

橋本和徳

五戸町ごへの小泉ナミさんは、無農薬にこだわって自家用野菜をつくっています。試行錯誤の末、土を水で煮込んで上澄み液を散布する方法にいきつきました。

まず、畑の表面の土を、ミルクの缶や大きめのお茶の缶に3分の1くらい集めます。缶には針金などで取っ手を付けると便利です。缶の7分目まで水を足して、10分ほど火にかけてながらときどき混ぜる。その上澄み液を、適当に薄めて野菜に散布します。6ℓくらいに薄めてジョウロでま



くこともあれば、1000〜1500ℓに薄めて噴霧器でまくこともあるそうです。

効果はてきめんで、アブラムシは姿を見せなくなり、アオムシは葉の上で動かなくなり、悩んでいたネキリムシは土の中から死骸で見つけられました。しかし、トウモロコシについた黒っぽいアブラムシには効果が薄かったようです。不思議な話ですね。ヤマカワプログラムの「土のスープ」を思い出しましたが、小泉さんはヤマカワのことは知りませんでした。水道水よりも、井戸水や川の水、雨水を使うこともポイントのようです。

富山
から

木酢液を吊るすだけ！ カメムシが来なくなつた

龍澤宏明

毎年困るイネのカメムシ害。自然農法で米づくりをしている富山市の岡田栄一郎さんは、木酢液を利用した防除で長らく大きな被害にあつていないそうです。

やり方は簡単。まず2ℓのペットボトルの上部側面の2カ所に切れ込みを入れ、雨よけのひさしの付いた窓を開けます。10倍に薄めた木酢液を窓のちよつと下まで入れたら、イボ竹で作つた三脚に針金で吊るします。稲穂の少し上、ぎりぎりの高さにするのがポイントで、田んぼの中のほうに、出穂からイネ刈り5日前くらいまで吊るしておきます。岡田さんは4反に12カ所設置しており、南から風が吹いて田んぼ全体に木酢液のニオイが広がります。

この方法を始めてから、困っていたカメムシ害が激減しました。農薬を使わないのでカエル

などの田んぼの生き物も防除を手伝ってくれます。畑にも応用できそうですね。





広島
から

灯油で厄介なクズを退治！

浅川初音

アゼや土手にクズがはびこると、イノシシが掘って崩れて困る……なんてこと、ありますよね。庄原市の中山間地域で無農薬有機の野菜と

米をつくっている永迫眞二ながさきさんが、そんな厄介なクズを根絶する方法を教えてくださいました。

クズはまず、地上3cmくらいのところで刈り払い、地中の根とつながる茎が見えるようにします。その茎に灯油をしみ込ませた布をかぶせて輪ゴムで留め、揮発しないよう土で埋める。灯油を吸ったクズは根まで枯れ、翌年は生えて

きません。次の年、処理しそびれて伸びてきたつるをまた刈って、同じように布をかぶせる。布は分解するのでそのまま放っておいても大丈夫です。

永迫さんはこの方法で、たった2年で土手のクズを全滅させました。手作業なので広範囲に広がってしまった後だと大変ですが、早めに対処すれば厄介なクズも減らしていけるかもしれません。

大分
から

暑い夏にぴったり！

ゴーヤーとナシのジュース

杉野沙歩

日田市でナシをつくっている伴田初江さんは、ゴーヤーとナシのジュースで暑い夏を乗り切っています。



材料は、ゴーヤー2本とナシを2〜3個。ゴーヤーはタネとワタを取り、ナシは皮と芯を除いて、適当な大きさにカットしたら、ミキサーにかけてます。これで大きいグラス3杯分です。

最初はたくさん収穫したゴーヤーの使い道に困って作り始めました。今は健康のために夏になると毎朝飲んでいきます。1日に推奨される野菜摂取量350gは、食べるには多いですが、ジュースにすれば簡単に補えるし、お通じもよくなりました。ビタミンCも豊富なので、夏バテ対策にもいいですね。

ナシのほうは商品にならないクズ果を使っているのですが、無駄にならず一石二鳥。品種は何でもいいそうなので、ナシのほのかな甘さによってゴーヤーの苦みも気になりません。



長野
から

農家には入ってほしい、国の収入保険

宮地美里

佐久穂町では、ここ数年晩霜による被害が甚大で、果樹農家が大打撃を受けています。そんな中、プルーンとスモモを合わせて2・3haつくる高見澤良平さんは、国の「収入保険」に救われたといえます。

収入保険は出荷先がどこでもどんな作物でも、青色申告をしている農家なら入れます。期間中の収入が基準収入の9割を下回った場合に、下回った額の9割を上限に補てんする保険です。

高見澤さんは制度が始まった2019年から加入。ちょうどその頃子ども



もが就農したことがきっかけでした。それまでは災害という災害はなかったのですが、なんと加入初年度に大凍霜害で作柄が平年の40%。21年には38%と大打撃を受けました。「この保険

に入っていないかったら、子どもに就農はあきらめろ、というところだった」と高見澤さん。21年は掛け金80万円ほどで、1200万円ほどの補てんがあり、宝くじが当たったようでした。

異常気象や災害を理由にやめてしまうのはもったいない。農家にはぜひ収入保険に入ってほしいと語ってくれた高見澤さんです。